

環境影響評価方法書の概要

(山辺・県北西部広域環境衛生組合
ごみ処理施設建設事業)

平成30年2月13日(火)

奈良県くらし創造部景観・環境局 環境政策課

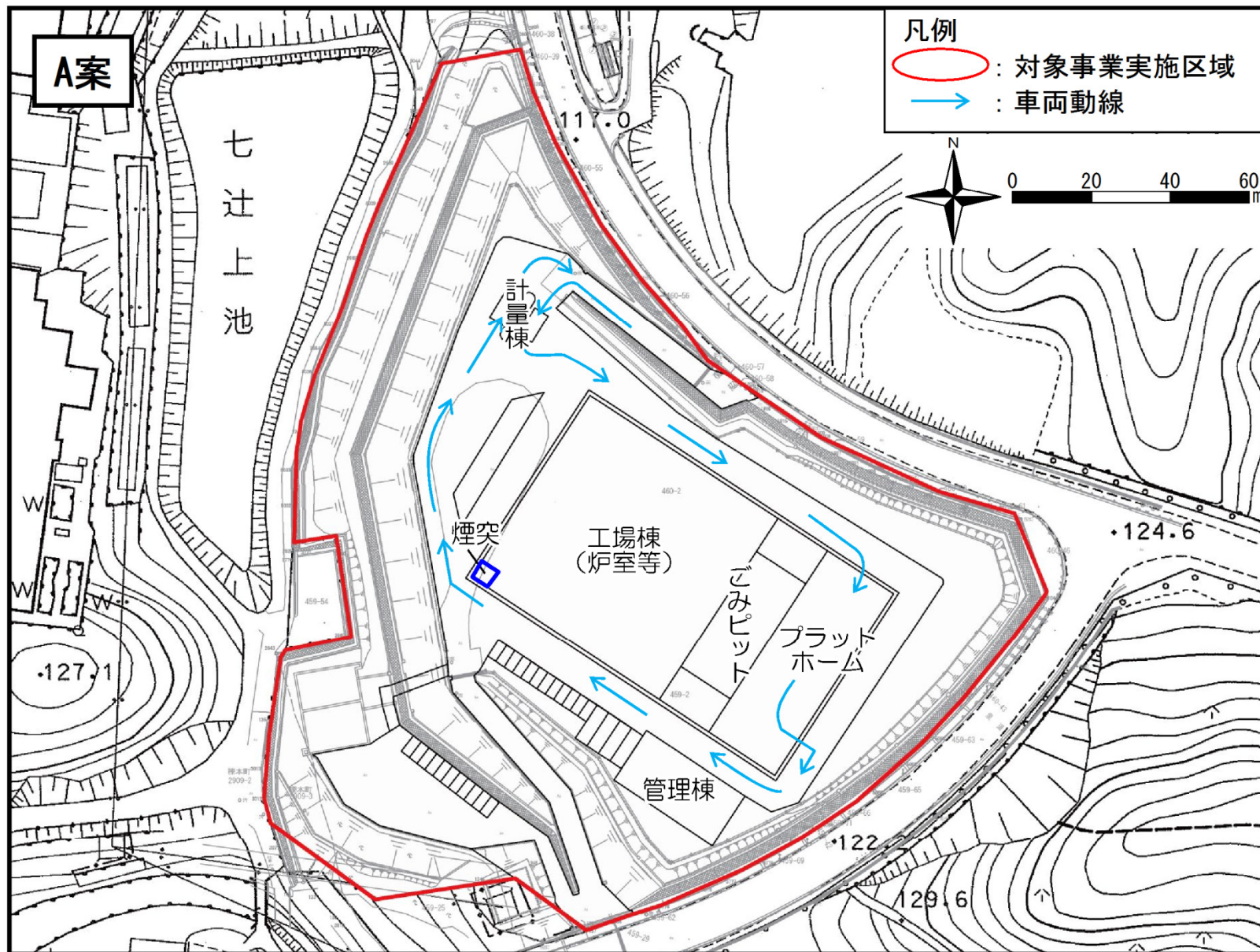
目次

1. 配慮書で検討した複数案 (P2～P5)
2. 複数案からの絞り込みの考え方 (P6～P8)
3. 環境影響評価項目 (P9～P10)
4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法
(P11～P44)

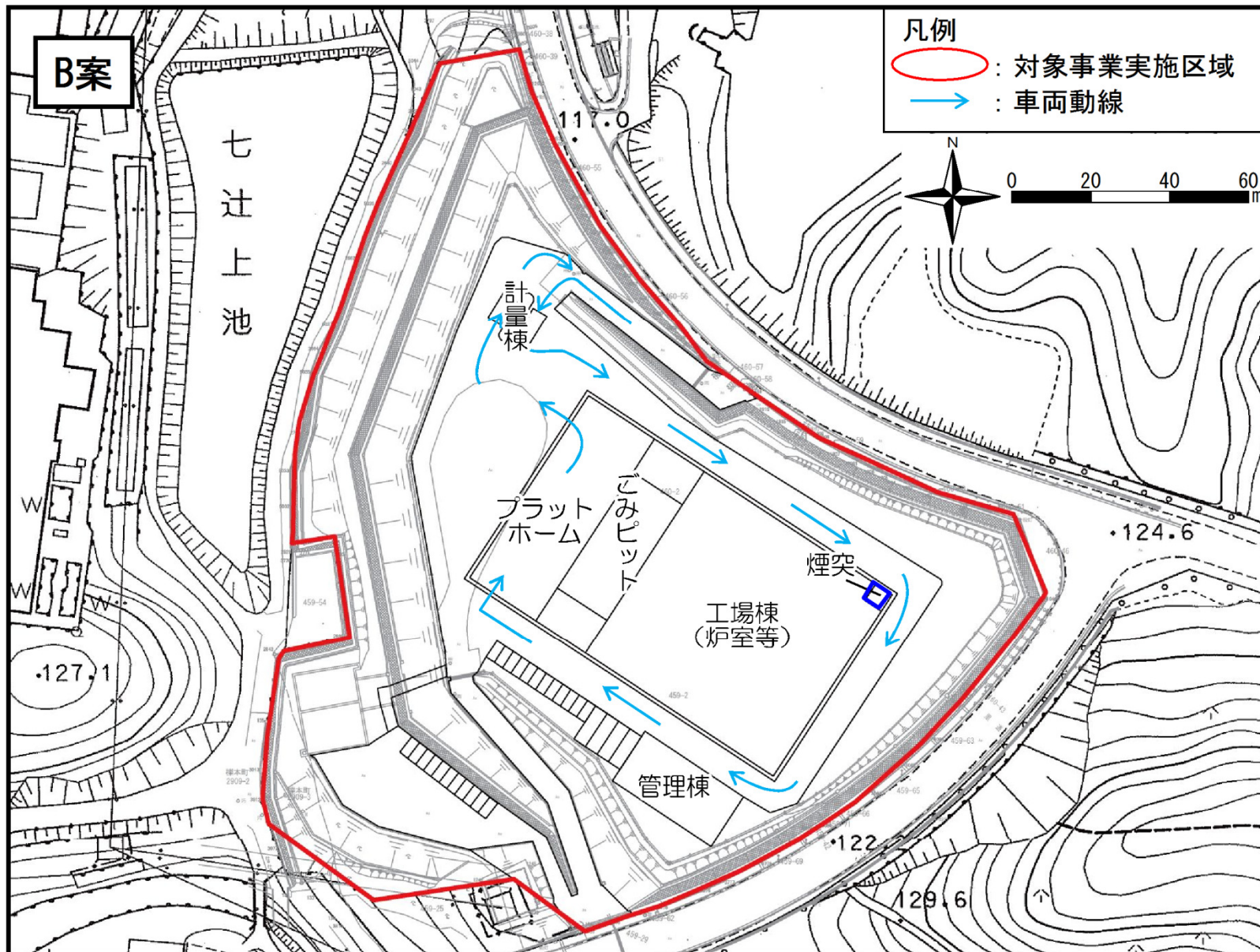
1. 計画段階環境配慮書で検討した複数案（※方法書 28頁）

施設配置		煙突高さ		複数案
A	プラットフォームの位置が南東側 煙突の位置が西側	①	59m	A-①
		②	45m	A-②
B	プラットフォームの位置が北西側 煙突の位置が東側	①	59m	B-①
		②	45m	B-②

都市計画配慮書対象事業におけるA案（※方法書 28頁）



都市計画配慮書対象事業におけるB案（※方法書 28頁）



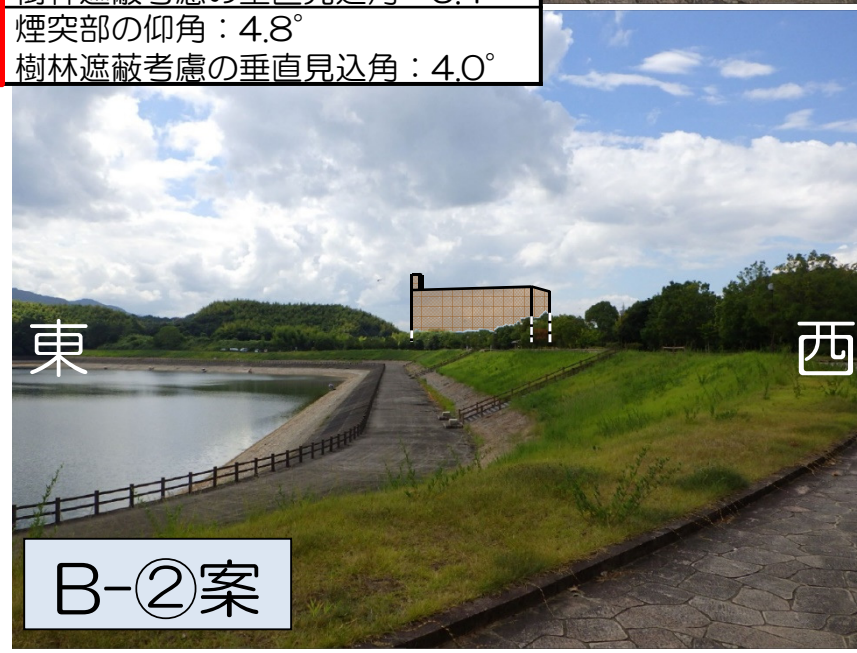
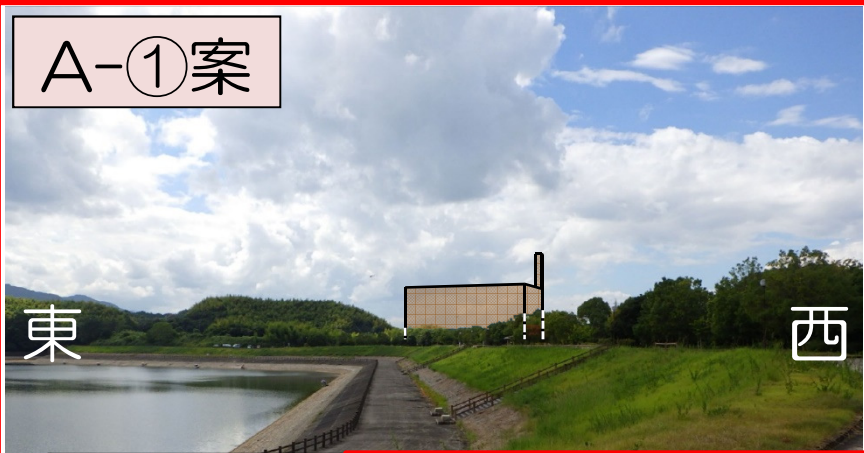
計画段階配慮事項に関する環境影響 総合評価 (※方法書157頁)

評価の視点		複 数 案				
		A-①	A-②	B-①	B-②	
大 気 質	予測結果	着地濃度 (大気安定度を種々の条件で予測して最大値が生じた大気安定度A(不安定)のケース)	1 (煙突高59mの結果を1とする)	1.13	1	1.13
	重大な影響		各案とも重大な影響は生じないと考える。			
	影響の回避・低減		高度な排ガス処理施設を設置し、法令に比べ厳しい自主的な排ガス基準を設け順守する。			
	目標・基準との整合		上記の措置を講じることにより環境基準等の目標基準との整合を図る。			
	評 価		○	△	○	△
景 観	予測結果	白川ダム湖畔から眺めた焼却施設及び煙突の垂直見込角(樹林による遮蔽考慮)	4.0° B-①案に比べ煙突下方が樹林に隠され目立たない。	2.6° B-②案に比べ煙突下方が樹林に隠され目立たない。	5.4°	4.0°
	重大な影響		新たな施設が出現するものの、景観構成要素が著しく異なるものではなく、各案とも重大な影響は生じないと評価する。			
	影響の回避・低減		建物の配置、規模、形状、色彩等に配慮する。今後の建築計画において建物のコンパクト化に配慮する。敷地外周部等に植栽を行う。			
	評 価		△	○	△	△～○

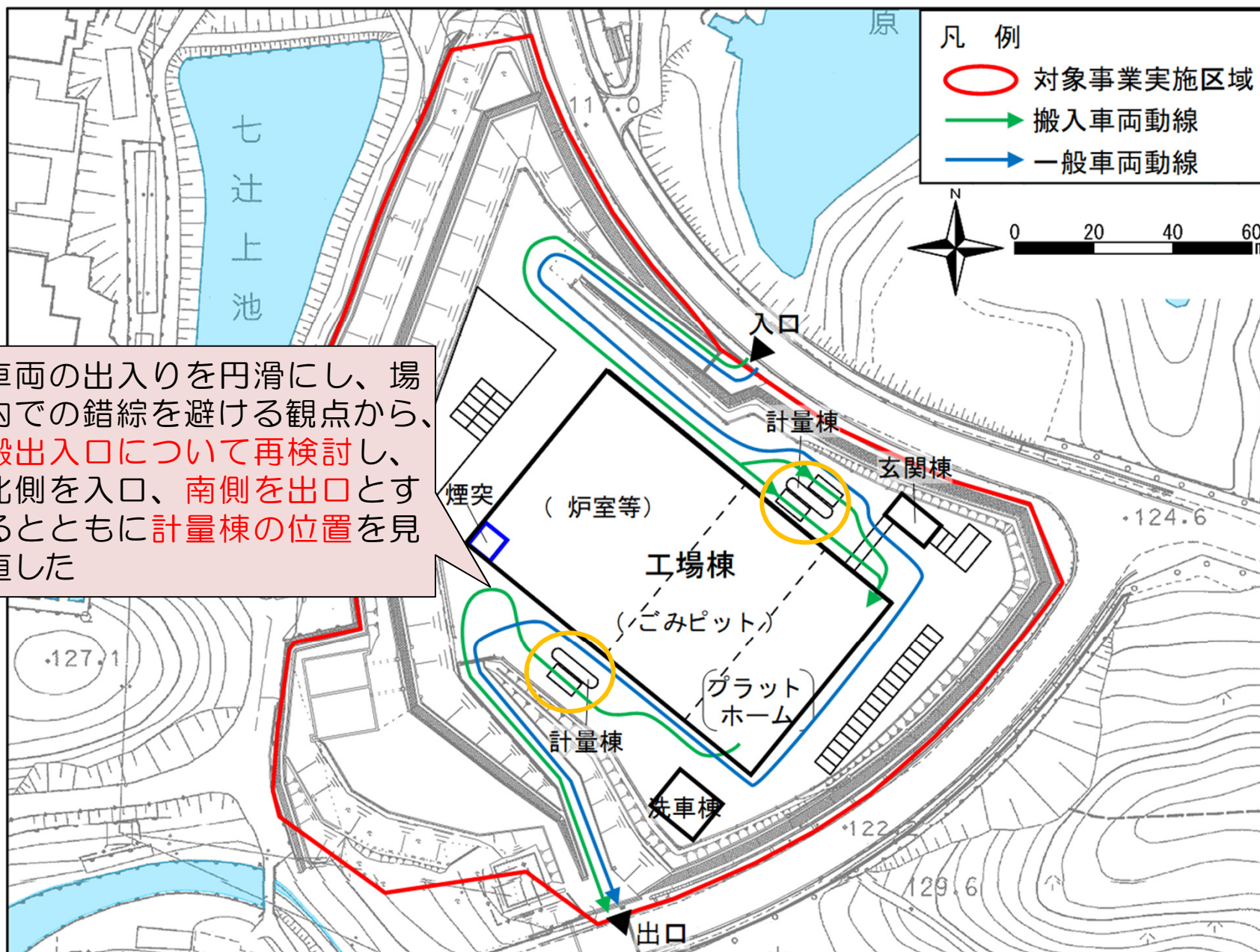
注) ○:他の案に比べて優れている。 △:他の案に比べて劣っている。

2. 複数案からの絞り込みの考え方（施設の配置）

施設配置		A案 (煙突が西側)	B案 (煙突が東側)
煙突高さ			
① (59m)		煙突部の仰角：6.1° 樹林遮蔽考慮の垂直見込角：4.0°	煙突部の仰角：6.2° 樹林遮蔽考慮の垂直見込角：5.4°
② (45m)		煙突部の仰角：4.7° 樹林遮蔽考慮の垂直見込角：2.6°	煙突部の仰角：4.8° 樹林遮蔽考慮の垂直見込角：4.0°



2. 複数案からの絞り込みの考え方（施設の配置）



2. 複数案からの絞り込みの考え方（煙突の高さ）

評価の視点		複数案		
		A-① (59m)	A-② (45m)	
大気質	予測結果	着地濃度 (大気安定度を種々の条件で予測して最大値が生じた大気安定度A(不安定)のケース)	1 〔煙突高59mの結果を1とする〕	1.13
	重大な影響		各案とも重大な影響は生じないと考える。	
	影響の回避・低減		高度な排ガス処理施設を設置し、法令に比べ厳しい自主的な排ガス基準を設け順守する。	
	目標・基準との整合		上記の措置を講じることにより環境基準等の目標基準との整合を図る。	
評価		○	△	
景観	予測結果	白川ダム湖畔から眺めた焼却施設及び煙突の垂直見込角(樹林による遮蔽考慮)	4.0° B-①案に比べ煙突下方が樹林に隠され目立たない。	2.6° B-②案に比べ煙突下方が樹林に隠され目立たない。
	重大な影響		新たな施設が出現するものの、景観構成要素が著しく異なるものではなく、各案とも重大な影響は生じないと評価する。	
	影響の回避・低減		建物の配置、規模、形状、色彩等に配慮する。今後の建築計画において建物のコンパクト化に配慮する。敷地外周部等に植栽を行う。	
	評価		△	○

- ・大気質と景観で相反する結果
- ・ダウンドラフトの影響への配慮が必要

H29年度中に施設整備検討委員会にて45m~59mの範囲内で確定

3. 環境影響評価項目（※方法書 173頁）

環境影響要因の区分 環境要素の区分			工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用			
			工 事 用 車 両 の 運 行	切 土 工 等	建 設 機 械 の 稼 働	施 設 の 存 在	施 設 の 稼 働	運 行 廃 棄 物 搬 入 車 両 の	雨 水 の 排 水
大気環境	大気質	二酸化窒素	○				○	○	
		浮遊粒子状物質	○				○	○	
		二酸化硫黄					○		
		粉じん等	○	○	○			○	
		ダイオキシン類					○		
		その他有害物質					○		
		騒音	○	○	○		○	○	
		振動	○	○	○		○	○	
		低周波音					○		
		悪臭					○		
水環境	水質	水の濁り		○					○
		水の汚れ							
土壌に係る環境	地形及び地質	重要な地形及び地質							
その他の環境	地盤・土壌	土壌汚染		○			○		

3. 環境影響評価項目（※方法書 173頁）

環境影響要因の区分 環境要素の区分		工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用			
		工事用車両の運行	切土工等	建設機械の稼働	施設の存在	施設の稼働	運行 廃棄物搬入車両の	雨水の排水
動物	重要な種及び注目すべき生息地				○			
植物	重要な種及び群落				○			
生態系	地域を特徴づける生態系				○			
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観				○			
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	○			○		○	
文化遺産	文化財及び埋蔵文化財包蔵地							
廃棄物等	建設工事に伴う副産物		○					
	廃棄物					○		
温室効果ガス等	二酸化炭素					○		

4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

(1) 大気質 ①調査手法 (※方法書177～178頁)

文献その他の資料調査			
<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染常時監視測定局等における測定結果の収集、整理及び解析 ・気象観測所における気象観測結果の収集、整理及び分析 			
現地調査			
環境要素	調査項目	調査地点	調査頻度・期間
気象	地上気象	対象事業実施区域内1地点	1時間値の連続測定を1年間
	上層気象		7日間(8回/日)を4季(春季・夏季・秋季・冬季)に各1回
一般環境 大気質	二酸化窒素	6地点(対象事業実施区域内1地点及び対象事業実施区域周辺の民家近傍5地点)	1週間連続測定を4季(春季・夏季・秋季・冬季)に各1回 ※その他有害物質について、1季あたり調査頻度は以下のとおり 塩化水素・水銀:24時間値×7検体 それ以外の物質:24時間値×1検体
	浮遊粒子状物質		
	二酸化硫黄		
	ダイオキシン類		
	その他有害物質		
粉じん等	降下ばいじん		1ヶ月連続測定を4季(春季・夏季・秋季・冬季)に各1回
道路沿道 大気質	二酸化窒素	工事用車両及び廃棄物搬入車両の走行道路沿道4地点	1週間連続測定を4季(春季・夏季・秋季・冬季)に各1回

4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

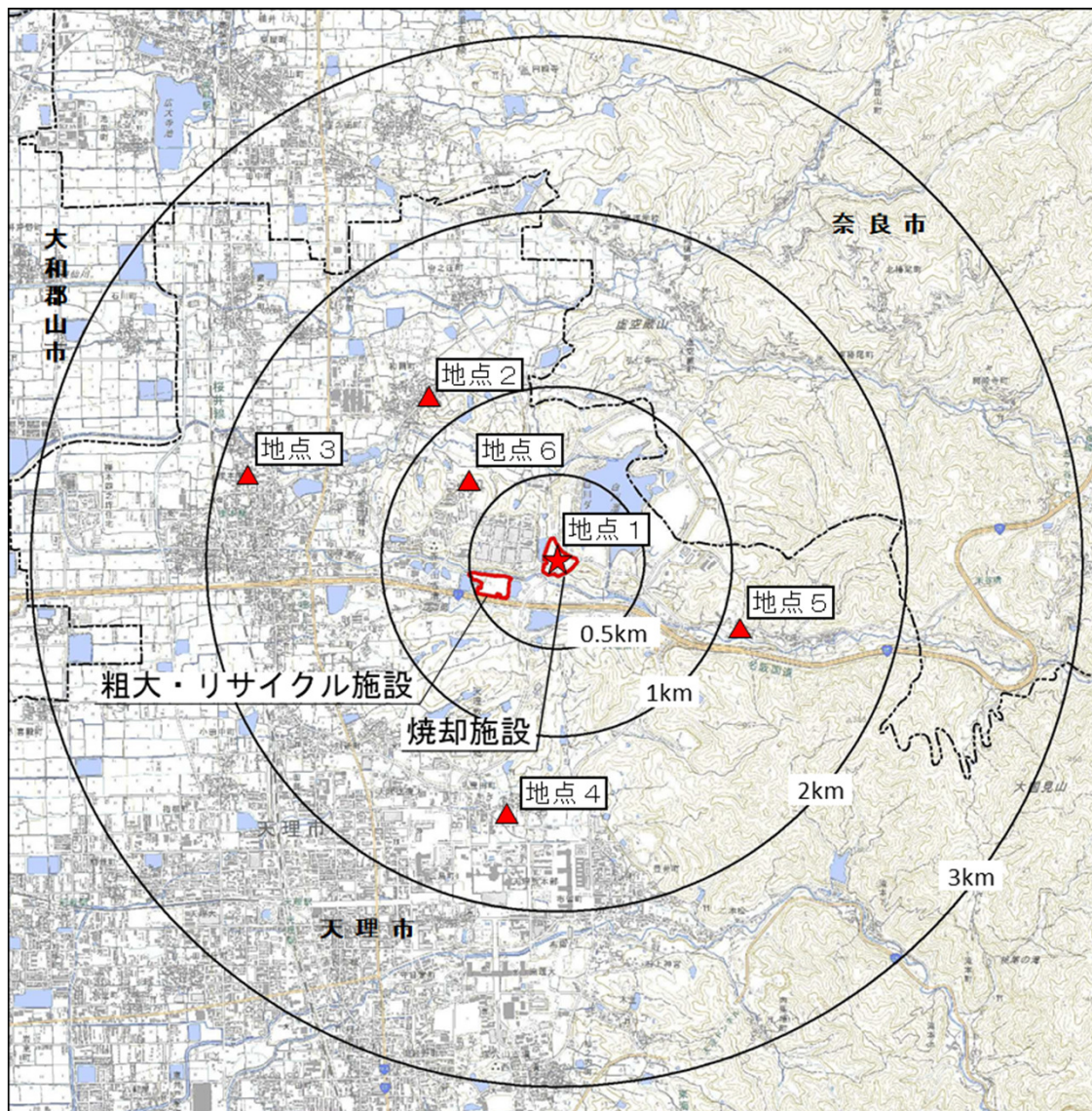
(1) 大気質 ②予測手法 (※方法書181頁)





影響要因	予測項目	予測地域	予測時期
切土工等及び建設機械の稼働	粉じん等	対象事業実施区域周辺5地点	切土工等及び建設機械の稼働に係る環境影響が最大となる時期
工所用車両の運行	二酸化窒素	車両運行ルート沿道4地点	工所用車両の運行による二酸化窒素及び浮遊粒子状物質に係る環境影響が最大となる時期
	浮遊粒子状物質		
	粉じん等		
施設の稼働	二酸化窒素	対象事業実施区域より3kmの面的な影響濃度分布最大着地濃度地点や調査地点	焼却施設の稼働が定常状態になる時期
	浮遊粒子状物質		
	二酸化硫黄		
	ダイオキシン類		
	塩化水素		
	水銀		
廃棄物搬入車両の運行	二酸化窒素	廃棄物搬入車両の運行ルート沿道4地点	廃棄物搬入車両の運行による二酸化窒素、浮遊粒子状物質および粉じん等に係る環境影響が最大となる時期
	浮遊粒子状物質		
	粉じん等		

4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

(1) 大気質 (気象、一般環境大気質、粉じん等)

③ 調査地点 (※方法書179頁)



凡例	
	: 対象事業実施区域
	: 市界
	: 一般環境大気質、地上気象、上層気象 粉じん等調査地点
	: 一般環境大気質、粉じん等調査地点

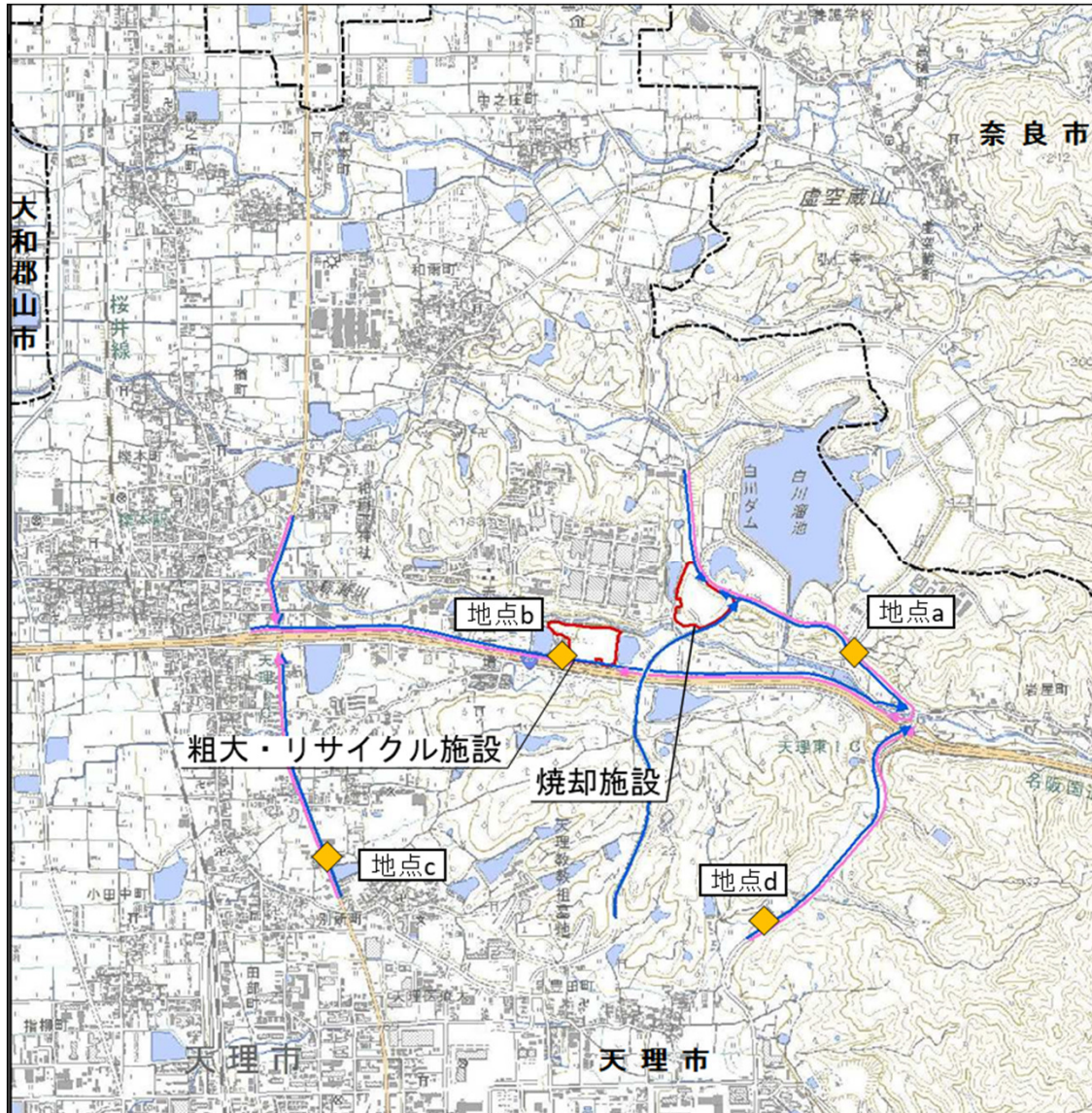
地点1	焼却施設建設予定地
地点2	とみの森公園(北方向)
地点3	櫛本幼稚園(西方向)
地点4	豊田公民館前駐車場(南方向)
地点5	岩屋町公民館東(東方向)
地点6	白川台公園(近隣住宅街)

4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

(1) 大気質 (道路沿道大気質)

③ 調査地点

(※方法書180頁)



凡例	
	: 対象事業実施区域
	: 市界
	: 道路沿道大気質
	: ごみ収集車等走行ルート (焼却施設)
	: 不燃・リサイクルごみ収集車等走行ルート (粗大・リサイクル施設)

地点a	市道611号豊田櫟本線
地点b	名阪国道側道
地点c	一般国道169号
地点d	県道51号線

4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

部会意見（大気質）

部会意見	事業者
<p>上層気象の調査について、調査期間を年4季、7日間の調査としているが、観測条件を十分検討した上で、調査・予測・評価を実施すること。</p>	<p>部会審議の内容を踏まえ、調査・予測・評価を行い、準備書に記載する。</p>
<p>施設の稼働による粉じん等について、粗大・リサイクル施設において予測・評価を実施すること。</p>	<p>部会審議の内容を踏まえ、予測・評価を行い、準備書に記載する。</p>

4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

審査部会における意見概要、事業者の見解（大気質）

意見	事業者見解	部会意見(案)
排出ガスの自主規制値について、可能かどうかはわからないが、メーカーに今の最新技術で達成可能なレベルを意識した上で、規制値を制定していただけますか。	各メーカーの最新技術で対応可能な規制値についてヒアリングし、把握しております。これらをもとに施設整備検討委員会で自主規制値を検討し、確実に順守することが約束できる数値として設定します。	質問事項
対象事業実施区域は山谷の影響を受けているような場所なので、逆転層の出現にも十分に配慮した調査をしていただきたい。	対象事業実施区域周辺は盆地地形という特徴であり、山谷風や放射冷却による接地逆転の状況を把握する必要があると考えられます。方法書に記載した調査季節、期間、回数は技術指針・マニュアルに沿ったものであり、ご指摘の状況を把握できる仕様と考えています。	質問事項

4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

(2) 騒音

① 調査手法 (※方法書184頁)

文献その他の資料調査			
・土地利用図や地形図等の既往資料の収集及び地表面の種類、建物立地状況等の把握			
現地調査			
環境要素	調査項目	調査地点	調査期間
騒音	環境騒音	対象事業実施区域境界5地点	平日・休日に各1回(24時間)
	道路交通騒音	工事用車両・廃棄物搬入車両の走行道路沿道4地点	

② 予測手法 (※方法書188頁)

影響要因	予測項目	予測地域	予測時期
工事用車両の運行	道路交通騒音	工事用車両の運行ルート沿道4地点	工事用車両の運行による騒音に係る環境影響が最大となる時期
切土工等及び建設機械の稼働	建設作業騒音	対象事業実施区域界から概ね100mの範囲内	切土工等及び建設機械の稼働に伴う騒音に係る環境影響が最大となる時期
施設の稼働	工場騒音	対象事業実施区域境界5地点	施設の稼働が定常の状態となる時期
廃棄物搬入車両の運行	道路交通騒音	廃棄物搬入車両の運行ルート沿道4地点	廃棄物搬入車両の運行による騒音に係る影響が最大となる時期

4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

(3) 振動

① 調査手法 (※方法書190頁)

文献その他の資料調査			
・地質図や土地分類図等の既往資料の収集及び表層地質や軟弱地盤の分布状況の把握			
現地調査			
環境要素	調査項目	調査地点	調査期間
振動	環境振動	対象事業実施区域境界5地点	平日・休日に各1回(24時間)
	道路交通振動	工事用車両・廃棄物搬入車両の走行道路沿道4地点	

② 予測手法 (※方法書194頁)

影響要因	予測項目	予測地域	予測時期
工事用車両の運行	道路交通振動	工事用車両の運行ルート沿道4地点	工事用車両の運行による振動に係る環境影響が最大となる時期
切土工等及び建設機械の稼働	建設作業振動	対象事業実施区域界から概ね100mの範囲内	切土工等及び建設機械の稼働に伴う振動に係る環境影響が最大となる時期
施設の稼働	工場振動	対象事業実施区域境界5地点	施設の稼働が定常の状態となる時期
廃棄物搬入車両の運行	道路交通振動	廃棄物搬入車両の運行ルート沿道4地点	廃棄物搬入車両の運行による騒音に係る影響が最大となる時期

4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

(4) 低周波音

① 調査手法 (※方法書196頁)

文献その他の資料調査			
・土地利用図や地形図等の既往資料の収集及び地表面の種類、建物立地状況等の把握			
現地調査			
環境要素	調査項目	調査地点	調査期間
低周波音	低周波音圧レベル	対象事業実施区域境界5地点	平日・休日に各1回(24時間)

② 予測手法 (※方法書198頁)

影響要因	予測項目	予測地域	予測時期
施設の稼働	低周波音	対象事業実施区域境界5地点	施設の稼働が定常の状態となる時期

4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

(5) 悪臭

① 調査手法 (※方法書199頁)

環境要素	調査項目	調査地点	調査期間
悪臭	特定悪臭物質濃度	対象事業実施区域境界5地点	1季(夏季)に1回
	臭気指数		

② 予測手法 (※方法書114頁)

影響要因	予測項目	予測地域	予測時期
施設の稼働	特定悪臭物質濃度	対象事業実施区域境界及び煙突からの排出ガスの最大着地濃度となる地点	施設の稼働が定常の状態となる時期
	臭気指数		